

出会い ふれあい 助け合い

サロンあべの

VOL.171

サロン亭

今年も、大入りでした。

〈サロン・あべの〉8月の出会い

平成十二年八月六日(日)午後、第二十七回あべのカーニバルが阿倍野区役所と工芸高校グラウンドで開催されました。

例年どおり(サロン・あべの)は、工芸高校グラウンドの「なんでも市どおり」に『サロン亭』

の出店で参加しました。

当日は、午後一時頃から開店準備を始めました。店頭には、サロングッズの絵はがきや好評の一筆箋などが並んでいきます。テント内では皆さんから提供していただいた品物が、所狭しと並べられていきます。

午後三時から販売開始時間なのですが、開店前から多くの

お客さんが『サロン亭』に集ま

ってください、早くも賑いを見せていました。品定めされるお客さんと販売をお手伝いしてくださる方々の真剣なやり取りの声がテントの中で交わされます。開店した時は、品物でいっぱいだったテントの中も、石鹸やタオルなど人気のあるものからアツという間に売れて、どんどん

品物が少なくなつていきます。そして午後六時、無事に閉店。

毎年のことですが、皆さんからのたくさん品物の奇贈、また暑い中、カーニバル前日の品物の値札付け、当日の品物の搬送や、販売のお手伝いをしていただいた方々には、本当に感謝しております。そして品物を買っていただいたお客さま、本当にありがとうございました。多くの方々の理解あるご協力に支えられて、今年も(サロン・あべの)の『さろん亭』は大成功でした。

(山村貴司)

感謝します

「さろん亭」は今年も多くのみなさま方にご協力、ご支援をいただきまして、品数豊富な楽しい店開きが出来ました。猛暑の中、まことにありがとうございました。

収益金 七一、四五五円

「さろん亭」にご協力・ご支援をいただいた方々

赤松菊間・旭純子・安達尚子・阿倍野区肢協(竹下秀樹・吉田毅)・有野千代乃・池田カツ子・石田律・石田花子・石原栄・伊東裕子・井上礼子・稲川絢子・上平幸雄・植松菊雄・大北清子・太田博・大高澄子・大谷美津子・加賀谷正・木口久子・小西京子・近藤千枝子・桑田加代子・栗岡喜久子・蔵田均・坂井柁予・阪口悦子・崎本ヒサエ・鹿野敬一・清水郁子・下村実幸・生野智子・関幸子・大丸久美子・高尾澄男・高木陽子・竹島照子・竹村定子・田辺サカエ・辻本輝子・津村和泉・出口正敏・手島八重子・富田慶子・長井由紀・中嶋良子・中西久雄・中西利香・永堀厚子・中村久子・鍋谷真沙世・林三起子・原田仁ご家族のみなさま・久木浩・表谷恵美子・藤井さゆり・松本聡美・松森美智子・村松育子・八木千代・山内紀代子・倭栄司・山根匡子・山村貴司・山本篤江・山本敏子・吉原和郎・その他の方々



自立生活理念を考える —自己決定と介助—

■ 4 ■

黒田 隆之

前回は、J.S.ミルの『自由論』をもとに自己決定について考えた。今回は、自己決定を権利としての「自己決定権」としてとらえた場合の、憲法学者の佐藤幸治と民法学者の山田卓生の討論について考えてみたい。

山田卓生先生は、自己決定権を「他人に関係のない事柄については、自分に決定権があり、自分にしか害がおよばない行為であれば、自らの責任において行為することができる」権利であるとし、自己決定権の条件として次の二つをあげている。一つは「自己決定権とはいつても、あらゆる事柄についての一般的な自己決定権ではなく、私事、すなわち、他

人に危害を与えない分野におけるものである点で、一般の基本権と異なる」ということであり、もう一つは、「自己決定権は、あらゆる個人に認められるわけではなく、『成熟した判断能力』をもつ者についてのものである点で、権利としては、特殊である」ということである。どちらもその原点は、ミルの『自由論』のなかにあると山田は説明している。

さらに、山田自身は、自己決定権を、「自ら決定するというような積極的な決断というよりも、自分が好きなようにすることに對する他からの干渉からの自由、ブランドイス裁判官の表現をかりれば『一人にしておいてもらう権利』という消極的なたちで」とらえている。

このような山田の意見に對して、佐藤幸治先生は、「特に『成熟した判断能力』を求めることの根拠はどこにあるか、未成年者や精神障害者の場合は『自己決定権』はどうなるのか、『自己決定権』は認められないということになるのか、人権とはおよそ人がたまたたることによって当然に有する権利であるとする」と、『自己決定権』は人権ではないという含意を生じないか」という疑問を提示し、人権の

基礎を人間の人格的自律権に置くことの必要性を述べている。そして、憲法13条を根拠とする憲法上の権利として人格的自律権（自己決定権）を提起し、すべての人が当然に有する人権として自己決定権があるべきことを示している。

佐藤がいうように、自己決定権とは、新たな権利として作られたもの、作られるべきものではなく、人格的自律という人間の尊厳の根幹に基礎付けられているものである。しかし、ホセ・ヨンパルト先生が言うように、自己決定権という権利の内容は「自由のことであり、その自由を妨げてはいけない、妨げることは禁じられている」というだけのことであり、「国家または他の国民は積極的に何かをするようには義務づけられていない」というのが一般的な理解であろうから、実のところ障害者にとつてこのような内容だけの自己決定権が保障されたとしても、理念的にはともかく、実質的にはあまり意味が無いことになる。障害者の自己決定を考える場合、自己決定したことが実現するかどうかということもあわせて考える必要がある。

〈サロン・あべの〉の代表として二年目の山村貴司さん。彼も、人前で話すことや文章を書くことに、相当、苦勞をしているようです。でも、それもこれも自己表現の練習だと思って、がんばっています。

〈サロン・あべの〉に対する最初の頃の印象について、「堅い感じだけど、毎回、いろんなテーマを取り上げていてすごい」と思ったそうです。

また、〈サロン・あべの〉の魅力は、運営委員の人柄と、そのバランスの良さだと感じているようです。つまり、あらゆる面において中立で偏りが少ないことを、長所として感じています。

今後の目標も含めて、彼自身は、初めて参加する人が、また足を運んでみたくなくなるような、そんな毎月の「出会い」を作っていきたいそうです。

彼は、頭が良くて堅実です。その反面、消極的なイメージもつきまといまいます。でも、ほんの少し積極性を出せれば、彼の潜在能

力の高さが、もっと生かされるような気がしていました。今は、代表という肩書きを重荷に感じていると思います。無理やり代表にさせられたかと思っっているかもしれない。でも、彼を長く見てきて、何か物足りなさを感じると同時に、きっかけが必要だと思ったのです。

〈サロン・あべの〉の代表として二年目。彼にも少し変化が見えてきて、これからはとても楽しみです。

サロンのキムタク

次は、サロンのキムタクこと、Iさん。〈サロン・あべの〉が発足した当時からのメンバーで、以来、ずっと「サロン・あべの」紙の編集長です。

〈サロン・あべの〉に関わる以前には、これといった活動もしていなかったようですが、ほとんど相前後する形で、点訳ボランティアなど、いくつかのグループに関わ

り始めました。

〈サロン・あべの〉の生みの親とでも言える岡知史さんとの出会いが、そのまま、〈サロン・あべの〉との出会いでもありました。最初の頃の印象も、〈サロン・あべの〉のキャッチフレーズ同様、出会いふれあいがあったそうです。

〈サロン・あべの〉の魅力については、「いつも新しい出会いがある。人だけでなく、心の出会いが新鮮」と感じているそうです。ただ、現実的な問題として、財源も気になるところです。

裏方に徹する形で、あまり発言をしない人でしたが、最近では、ユーモアたっぷりに出会いの場を沸かせることが多くなったと思います。

編集の腕前は、みなさんご存知のとおりです。でも、逆に、そこが問題なんです。はっきりと目に見えるものだけに、ほかの運営委員では、真似ができないからです。原稿は分担して書いていますが、最終的な紙面作りは、Iさんの「カン」(勘・感・観……)に頼っているのです。Iさんの負担を軽減する意味からも、後継者の育成が課題です。

★物語を理解する

人はどうしたら理解しあえるのだろうか。国と国、民族と民族の争いや衝突のなかで、あるいは家族や愛しあう者どうしの間で、人の歴史が始まったところからずっと考えられてきたことなのかもしれない。この問題に対して、この数十年の間に広がった考えかたがある。それが「物語」



を通して人を理解するという方法である。たとえば、ここに一人の中学生がいるとしよう。最近、学校に行くのをやめてしまった。昼夜が逆転した生活をしていて、夜中になると家を出ていく。この子をどう理解すればいいだろうか。

昔からの方法は、こちら側が、少年の気持ちを想像して、あれこれと質問することである。「学校がおもしろくないの?」「学校でいじめられるの?」「受験で悩んでいるの?」「友達関係で悩んでいるの?」

こういう質問を続けていくと、「そんなじゃないよ」「別になんでもない」という返事が戻ってくる人が多い。人の心を「はい、いいえ」で答えさせる質問で理解するのは難しい。

では、どうすれば良いかというと、その少年に自分の話をさせるのである。どういうことで学校に行くのをやめたのか。いまの生活をどう思っているのか。それ

を聞き出すのである。これを「物語(ストーリー)」を聞くという。親が耳を傾けてくれたなら、少年は次のような物語を話し始めるかもしれない。

ある朝、遅刻しそうになってあわてて走っていたら、彼の姿をみて女子高校生のグループが笑っていた。何を笑っていたのかわからなかったが、バカにされた感じがした。次の朝も、偶然に同じ女子高校生たちに出会い、また笑われた。学校の近くにくると、また高校生たちに笑われるのではないかと思うようになり、憂うつになって学校に行かなくなった。

これは親が予想もしなかった原因だった。学校でのいじめや、授業への不満についていくら質問しても答えようとしないうちに、少年の気持ちはまったく別のところにあつたのである。

ただし、「物語」で人を理解するという考えかたには、「物語」には話し手と聴き手があるという前提がある。そして「物

「語」は聴き手によって内容が変わる。話し手と聴き手の関係のなかで「物語」は変化するのである。

少年は、心配して訪ねてくれた同性の友人には、担任の女性教師に「むかついてしかたがない、顔もみたくない」と話すかもしれない。街で偶然あったクラスメートの少女たちには、「体調が悪くて、学校にいけない。顔のニキビも体調が悪いためだ」と言うかもしれない。

少年は聴き手によって違う「物語」を話しているわけだが、重要なことは、それが真実なのかということではない。聴き手のない「物語」はなく、聴き手によって「物語」が変わることは当然のことだからだ。

では、そこからどう進めばいいのか。心理学者たちは、その物語から思春期を迎えた少年の性衝動とその抑圧を読みとるかもしれないが、それでは少年の物語から離れてしまう。

大事なことは少年の「物語」に自分も入っていくことである。「物語」に聴き手が入っていくけば、「物語」そのものが

変化し、より深い内容になっていく。たとえば女子高校生が笑ったのは、自分の顔のせいではないかと少年は思ったことが語られるだろう。

誰もが自分で作り上げた自分自身の「物語」のなかで生きていく。それは人との出会いによって無限に変化しながら、言葉や行動によって表現されている。それに耳を傾け、「物語」を通して人を理解しようという試みはまだ始まったばかりである。
(知)

奥田真祐美 リサイタル

愛
ただそれだけ

日 時=11月11日(土)
開場18時 開演18時30分
会 場=サンケイホール
入場料=前売¥5.000 当日¥5.500
(当日座席指定引替17時~)

構成・演出=アン・あんどろ

演 奏=馬詰のりあき&
ザ・スクラッチ

舞台監督=保澤睦己

音 響=松下みつお

照 明=藤森浩二

主 催=サンケイ企画

後 援=関西テレビ放送

お問い合わせ先=

奥田真祐美 音楽事務所

TEL・FAX06-6692-8774

好評のエッセイ!

岡知史著

□知らされない愛について

□ほんの少しの神に近い部分

◎ どちらも 700円
● 06・6691・1028 富田まで

植物あれこれ

第二十回

山口康二郎

―植物は生産者 動物は消費者―

前号を読まれた方はもうこの副題の意味は分かっていただけだと思いますが、もう一度整理をしてみたいと思います。

動物はどんな種類でも食べ物を食べて生きています。それぞれ生きるため草食動物は植物を探しまわり、肉食動物は餌を見つけ、追いかけて、捕え、それを体内で消化する仕事を毎日続けなければなりません。

しかし一方植物は、餌を捜す器官もないし、餌を追いかけたり、捕えたりする機能はまったくありません。自然界の水と大気を原料にして自分で作り出しているのです。つまり、自分の生活のエネルギーを自分で作り出すことで出来る生物こそ植物なのです。自分で生活の糧を作り出すことが出来ず、すでに出来上がっている栄養分を外界から獲得している生物が動物です。

したがって自然界では植物を「生産者」

動物を「消費者」と呼んでいます。自然界にはもう一つ「分解者」というものが存在しています。

動物が排出した物や、植物の落葉、あるいは動物の遺骸などは、いろいろな過程を経て分解され、結局は土の中の有機成分として、再び水とともに植物の根が吸い上げるのです。この分解はバクテリアと呼ばれる微生物であり、自然界全体では「生産者」「消費者」「分解者」の三つの立場に分けられます。

この三者がスムーズに機能すれば地球は永久にきれいなままで存在するはずでした。「命あつてのものだね」というのは人間界での諺ですが、自然界では「緑あつてのものだね」です。

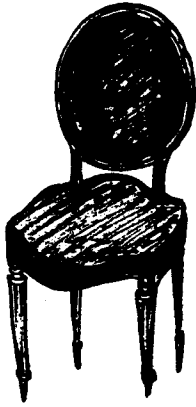
緑のないところは死の砂漠と同じであり、自然環境の中で、最も重要なものは酸素を供給し、土地を豊かにする緑、すなわち、植物に他ならないのです。人間を含むあら



ゆる動物は、生態系として自然環境の中でしか生きられないのです。「緑」は生態系が健全に生存できる状態にあるかどうかを計る基準となっています。しかし、地球上における緑の状態は毎年、日本国土の約半分が失われているといわれており、日本でも昭和四〇年から二〇年間に、大阪府の面積に相当する天然林が減少しているといわれています。

「樹を失った大地は大地ではない」

私たち人類は自然の中から生まれ、自然と深くかかわりながら生きてきたし、今もなお、後に続く人類を育ててくれているのです。



雑巾がけ

昨年の十一月から、毎週月曜日にホームヘルパーをお願いしている。

ヘルパーのAさんは、午後一時三〇分になるときちんと来てくれる。そしてAさんはすぐに買い物に行ってくれ、帰ってくると休む間もなく掃除をしてくれるのである。各部屋に掃除機をかけたあと、雑巾がけをしてくれるのだが、その時、窓わくや床やトイレの中までていねいに拭いてくれる。普段あまり雑巾がけなどしないだけに、こちらはずい分助かる。

雑巾がけといえば、えのもとえいいち 榎本栄一さんのこんな詩がある。

ぞうさんは

晴れのち晴れ

②4

稲垣 恵雄

他のよごれを

いっしょうけんめい拭いて

自分はよごれにまみれている

榎本さんは、たえず自分とい

うものを雑巾に照らして、自分はどうしようもないと感じてお

られるように思う。私はこの詩

とはまったく逆で、他人によご

れを押しつけて自分だけがきれ

いになろうとしている。おはず

かしい人間である。

ある宗教学の先生が「榎本さんはすべてのものに命を見い出しておられる。雑巾に輝く命を

発見されたのでしよう」と言わ

れている。

Aさんの雑巾がけを何気なく

見ていて、私はこの詩を何度も

復誦し、心洗われる思いがした。

美智子のこんな話

岸田美智子

ヘルパーさんが倒れる！ その時・・・

私の自立生活を支えてくださっている大きな力として、大阪市の社会福祉協議会から派遣されているホームヘルパーさんの存在があります。

私は平日の毎朝七時から十時までの三時間と、火・木の夜七時十五分から八時四十五分までの間を利用しています。火・木の夜のヘルパーさんには、主にお風呂と寝る前のトイレ、寝支度などをお願いしています。私のお風呂は全面介助で、使いづらい一般のマンションでの入浴では、抱えるこ

とも多くあり、必ず二人の介助者が必要です。いつもこの社協のヘルパーさんとこちらの泊まり介助者とペアで行ってもらっています。

去る八月二十四日(木)の夜、いつものように社協のヘルパーのAさんが時間より少し早目につききました。でも、来る前から気分が悪く、駅からタクシーで来たそうです。私の部屋に入った途端、しんどいと訴え、お水が欲しいと言われ、私の介助者がコップに水を入れ、Aさんに渡しましたが飲めなくてこぼしてしまわれました。Aさんの表情を見ると動悸が激しく、首の所でドキドキしているのが見ても解る状態で、脈を測ってみると、一分間に一三八にもなっており、顔も右半分が少しひきつっているように見えました。なお、この日の泊まり介助はヘルパー2級の資格を持ち、二十一年ぐらいの介助経験のあるベテラン介助者と、たまたま私の入浴介助を見学に来ていた新人の介助者の二名がいました。

Aさんに体のどこかおかしいところはないかと聞くと、右側が感覚がないということでした。またAさんはこのまま寝てしま

うと起きれなくなるのではと不安がり、座り込んで動けなくなっていました。

私の介助者がこれは脳梗塞などになりやすい危険な状態だと判断し、機転を利かすい危険な状態だと判断し、機転を利かす救急車を呼び、Aさんのご家族に連絡を取り、どこの病院に運ばばいいのかを聞き、救急隊員に指示し、ご家族が来られることも伝えました。

救急車を呼ぶと必ず誰かが同乗しなければならぬことになっているのですが、この場合、私の介助があるので介助者は同乗できないと伝えました。

この間、三十分ぐらい経っていました。Aさんの事務所である社会福祉協議会の在宅支援センターの所長の緊急連絡先の携帯電話に三々四回以上連絡しましたが、電源が切られた状態でメッセージを吹き込むことが出来ず、連絡できない状態でした。何のための緊急連絡先でしょうか！

困り果てた私は、最近社協のヘルパーさんを辞めて、個人的に介助に入ってくれているBさんに電話することを思いつきました。運良くBさんとは連絡が取れ、事情を話し現在の主任ヘルパーさんの電話番号を

聞くことが出来ました。結局所長と連絡が取れたのは、私の入浴介助があったこともあり、夜の十一時頃でした。ヘルパーさんの連絡先は利用者である私たちには教えてはいけないことになっており、ヘルパーさんが何らかの理由で時間になっても来ないときでさえ、ヘルパーさん本人には連絡できない状態です。

でも私の利用時間帯は在宅支援センターの開館時間外（開館時間は朝九時〜夕方五時）になるため、どこにも連絡できないのでは困ることを強く訴え、やっと所長の緊急連絡先である携帯電話の番号を教えてくださいました。なのに今回、その連絡先に繋がらなかったのです。

この時の所長のいいわけは「あの時は地下にいたので、連絡できない状態だった」とのこと。それならせめてメッセージを入れられるようにするか、着信表示から折り返し電話を出来るように置いて欲しいと私は訴えたのですが、所長は「二日前に新しい機種に買い換えたので、設定に時間がかかり間に合わなかった」などと答えて

いました。しかし後日、ヘルパーさんからは、あの時は電源を切っていたと聞かされました。本当はどうなんでしょうか。事実を今後追求したいと思っています。

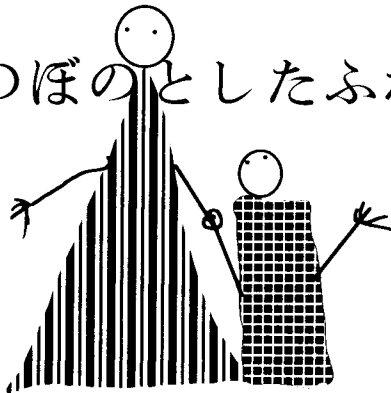
このヘルパーのAさんはこちらの判断や対応が早かったせいもあり、現在はもう仕事に復帰され、精密検査の結果を待つておられる状態です。

Aさんはこの日、直前まで何も異常はなかったそうです。このような体調の急変や事故、そして災害の時など、いつ誰に何が起こるか解りません。このような非常時の緊急対応こそ必要ではないかとしみじみ感じた今回のハプニングでした。

緊急時の対応があつてこそ、多くのヘルパーさんも安心して働けると思います。私たちとともに、緊急対応マニュアルを社会的に作り上げていく動きを、具体的に進めて欲しいものです。

ヘルパーさんの仕事は、日常的に休みなく人の生活を支えているし、何よりも大切な命を支えているのだから・・・。

ほのぼのとしたふれあい、いかがです。



これは便利。

一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

ききみみずきん

二千円札

新二千円札は、もうお手元に届きましたか。

沖繩サミット開催の年に発行という事で、表は守礼門の図。また、裏は源氏物語から「すず虫」の段の詞書の一部と源氏絵がデザインされていて、近頃古典文学に興味の出てきた私にはうれしいことでした。

私が初めて手にしたのは、趣味で通っている古典文学教室の先生が「皆で二千円札に印刷されている古文を読んでみましょう」と、両替してくださった一枚です。

十五夜の夕暮れに・・・と参考資料を手にしながら読み、また絵の方は後姿を見せているのが光源氏だそうです。

ところで、表側の下、両角に丸が三つずつ印刷されています

が、点字の「に」を図案化したもので目の不自由な人の識別のための印です。従来のお札よりも識別が容易になっているようで、一カ所にうつつら印刷され、手触りも微かなこれまでのものに比べ、デザインの一部のように誰かが意識せずにはおられないほどに、色も指で触れた感触もはっきりしています。

同じ世の中で、同じ物を各々のやり方で利用してゆくために、その手段を知るのは大切なことに思います。それは、相手の立場や不自由さへの理解を深めると思うからです。

二千円札を利用する人がこの丸を目にするたびに、目の不自由な人に心を添わせるきっかけになればと思います。

(表谷恵美子)

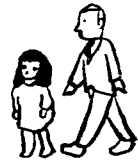
朗読グループ「ほけつと」のご協力で(サロン・あべの)紙一七〇号の録音テープ(六〇分)が出来ました。

朗読テープ文庫

- I (サロン・あべの)紙は、第一号より一七〇号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は一二〇分テープ二本)
 - II (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」(九〇分テープ二本十一二〇分テープに収録)
 - III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
 - IV 「ラジオたんぱ」放送(サロン・あべの)平成七年五月の出会い』放送分(三〇分)
 - V エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランディア活動の周辺(岡本栄一著II糸でんわ音訳)
 - VI 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著II糸でんわ音訳)
 - VII 「金子みすずへの旅」(島田陽子著・九〇分テープ二本II糸でんわ音訳)
 - VIII 「タヤけ空のオニヤンマ」(牧口二著・九〇分テープ四本II糸でんわ音訳)
 - IX 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著・九〇分テープ五本II糸でんわ音訳)
 - X 「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本十二〇分テープII糸でんわ音訳)
- いずれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田までお申し出ください。

(8)〇六・六六九一・二〇二八

福祉と愛との言葉



ほんの少し、風の中に秋の気配が感じられるようになってきました。

愛と同じで、受けると与えるとは、表裏というか、同一のものとは私は感じています。介助す

さて、早い！すごい！あつ。いつもへサロン・あべの紙を送っていただいてありがとうございます。介助す

さても早い！すごい！あつ。いつもへサロン・あべの紙を送っていただいてありがとうございます。介助す

感激したのは、さっそく北野 誠一先生のお話をまとめて載せてあったからです。なんと簡潔でシヤンとしてピリツとしている事か！と…。

寛容と洞察と少しばかりの

そうなのです。「福祉」という言葉、受ける、与える、というところから、いつになったら、みんなの幸せ、というところへシフト出来るのでしょうかね。

瀬尾洋美

お知らせ

<サロン・あべの>10月の出会い

日時…10月21日(土)

○車に分乗を希望される方

- ・長居集合=午後12時30分
長居障害者スポーツセンター
エレベーター前

○現地へ直接行かれる方

- ・現地集合=午後1時30分

場所…ATCエイジレスセンター

(大阪市住之江区南港北2-1-10)

アジア太平洋トレードセンター

ITM棟11階)

内容…ATCエイジレスセンター見学

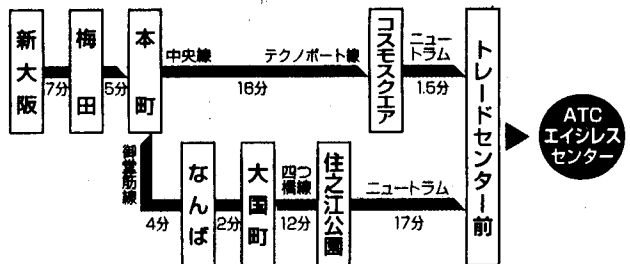
福祉機器の見学や体験

会費…¥300(駐車料分担費用など)

申し込み・問い合わせ…

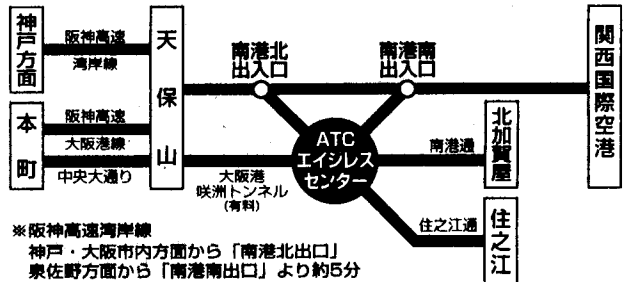
冨田慶子一頁 06-6691-1028

でお越しの場合



*地下鉄中央線本町から約17分「トレードセンター前」下車すぐ

でお越しの場合



*阪神高速湾岸線
神戸・大阪市内方面から「南港北出入口」
東佐野方面から「南港南出入口」より約5分



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」10月の社会い

日時: 10月15日(日) 午後1時30分~午後4時

場所: 淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容: フィリピンの文化を食から学ぶ
~互いの文化や習慣を理解するには食から
交流を深めよう~

パネラー: Evangelin Nakamura氏 他グループ

会費: なし

問い合わせ先: 淀川区社協 (ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

■「サロンつるみ」10月の社会い

日時: 10月1日(日) 午前10時~午後4時

場所: 大阪城公園 太陽の広場

内容: クイックマッサージ 10分間500円

企画: ウイズ東淀川・サロン淀川・サロンつるみ
合同企画

問い合わせ先: 鶴見区社協 (ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■《てくてく・すみよし》10月の社会い

日時: 10月8日(日)

集合時間: ・地下鉄御堂筋線長居駅 午前9時30分

・現地 海遊館入口階段前 午前11時

場所: 海遊館

内容: 海遊館見学会

会費: 2000円 (交通費と昼食代は個人負担です)

申し込み・問い合わせ先: 山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロン・ひらの」10月の社会い

日時: 10月21日(土) 午後1時30分~4時

場所: 平野区民センター

大阪市平野区長吉出戸5-3-58

内容: お弁当寄りになってみよう

会費: 100円

問い合わせ先: 平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」10月の社会い

日時: 10月14日(土) 午後1時30分~4時

場所: 西区ボランティアビューロー室

大阪市西區北堀江4-5-14 6階 (西區役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容: みんな集まれ!! 手話講座入門編!!

~講座の後は

ティータイムとレクリエーションゲーム~

パネラー: 手話サークル「わかまり」の方々

会費: なし

問い合わせ先: 宮協 ☎06-6537-0241

■サロン『アイ』10月の社会い

日時: 10月14日(土) 午後1時30分~4時

場所: 生野区在宅サービスセンター「おかちやま」

2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容: 高齢者と交通アクセス

パネラー: 田村勝章氏

会費: なし

問い合わせ先: 生野区社協 (ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■「サロン・たま」10月の社会い

日時: 10月22日(日) 午後2時~3時30分

場所: 伸幸苑 伊丹市寺本6-150

内容: ラテンの調べ ~中南米の音楽鑑賞~

会費: なし

問い合わせ先: 橋本 ☎0727-76-6765 (19時以降)

電話は早い、ファックスも
Eメールもある
けど、こころ伝わる
サロンの絵はがきが、いい。

サロンの絵はがき

五枚組 一八〇円

FROM EDITOR

編集後記

人様からの頂き物ですが、役立てていただけるとうれしいです。贈ってくださった方には、自分が使わないで申し訳ない気もするのですが、頂いたときに<サロン>に送ろうと押入れに取って置くのも私の楽しみです。都島のYさんから品物といっしょにこんな手紙が届きました。今年もたくさんの人に支えられて、「さろん亭」は盛況でした。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.171 [H.12. 9.16.発行]定価¥100.
代表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDE#2F TEL06-6719-8212